

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 大正
学校名 三軒家西小学校
学校長名 前谷 さき子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・三軒家西小学校では、第6学年 24名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- 3教科とも全国・大阪市平均を下回る結果となった。
(対全国比 国語-6.8 算数-3.0 理科-3.1 対大阪市比 国語-5.0 算数-3.0 理科-1.0)
- 国語科では、「書くこと」の内容で全国・大阪市との差が大きい。(対全国比-7.0 対大阪市比-4.2)また、平均無回答率が全国・大阪市よりも高い。特に漢字を文の中で正しく書くことや自分の考えをまとめて書くことについての設問で無回答率が高い。
- 算数科では、「測定」の領域で、全国・大阪市を上回っている。(対全国比-3.5 対大阪市比-3.4)
- 理科では、「地球を柱とする領域」で、全国・大阪市を上回っている。
(対全国比+2.7 対大阪市比+5.6)

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語科】

「読むこと」の領域では全国・大阪市との平均正答率の差が小さい(-2.3 -1.7)。昨年度から国語科を校内研究教科として取り組んだ成果だといえる。一方、「書くこと」の内容で全国・大阪市との差が大きく(-7.0 -4.2)思ったことや考えたことを文章に表すことが課題である。また、児童自身もそのように感じている。

【算数科】

「測定」の領域で、全国・大阪市を上回っており (+3.5、 +3.4)、日々の授業において具体的な場面設定や体験的な学習を重視した指導の成果が表れていると考えられる。

「データの活用」の領域で、全国・大阪市との差が大きく (-3.4 -3.4)、表やグラフから必要な情報を読み取り、言葉や数で的確に表現する力に課題がある。これは、国語科で「書くこと」に課題があることと関連づいているといえる。

【理科】

平均無回答率が全国・大阪市よりも低く (-1.6 -1.8)、児童が意欲をもって課題に臨んでいることが成果だといえる。また、「地球を柱とする領域」で、全国・大阪市を上回っている(+2.7 +5.6)。一方、理科でも自分の考えを文章で表現する設問は平均正答率が全国・大阪市との差が大きく (-17.4 -13.1) 国語科・算数科と同様の課題といえる。

質問調査より

- 「自分にはよいところがありますか」の設問に対し肯定的に回答する児童の割合が95.9%、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の設問に肯定的に回答する児童の割合が100%で、自己有用感等を高く持っていることがわかる。
- 「朝食を毎日食べている」の設問に最も肯定的に回答する児童の割合が、62.5%で、全国や大阪市よりも20P近く低い。しかし、「健康に過ごすために授業で学習したことや教えられたことを普段の生活に役立てている」の設問に肯定的に回答する児童の割合は91.7%と高く、前述の結果とは矛盾がある結果となっている。
- 「地域の大人に授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動にかかわってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることができますか。」の設問に対し、肯定的に回答する児童の割合が50.0%と高く、本校が地域とのつながりを大切に取り組みを継続してきたことが成果として表れている。

今後の取組(アクションプラン)

3教科の結果から共通して見えてきた課題は「書くこと」であり、これは本学年に限らず、本校全体の経年的な課題であるといえる。そのため、全教員が共通理解のもと、国語科を中心に「書くこと」の力を育成する指導の充実を図る。

算数科については、質問調査で「算数の勉強は好きですか」の設問に最も肯定的に回答した児童の割合が16.7%と低く、「算数の授業で学習したこと普段の生活の中で活用できていますか」の設問でも33.3%にとどまつた。したがって、児童が「学んでよかったです」「生活に役立つ」と実感できるような学習展開を積極的に取り入れる必要がある。

理科についても、児童が明確な目的を設定し、設定した目的の達成状況を振り返り、改善して再度取り組むといった学習活動の充実を図る必要がある。特に、観察・実験の結果をもとに自分の考えを文章で説明する場面を重視し、思考の過程を言語化する力を育む。

教科学習や日常の学校生活や家庭・地域での生活を通して学んだことを将来や生活につなげられるように、授業で実生活や社会と関連付けて学ぶ機会を工夫し、学ぶ意義を実感できるようにする。

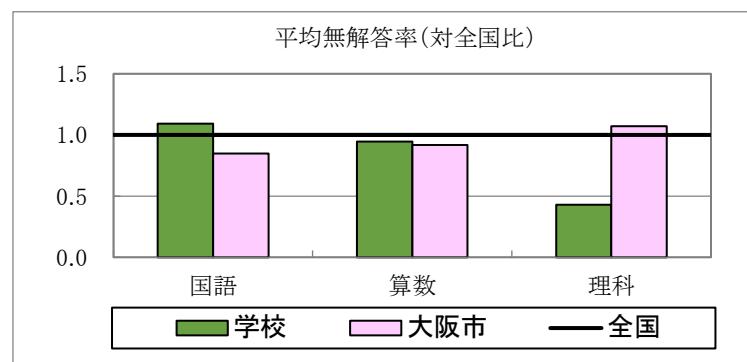
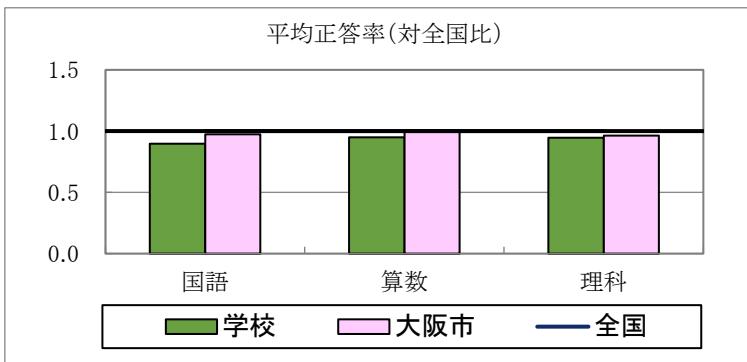
【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	60	55	54
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	3.6	3.4	1.2
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

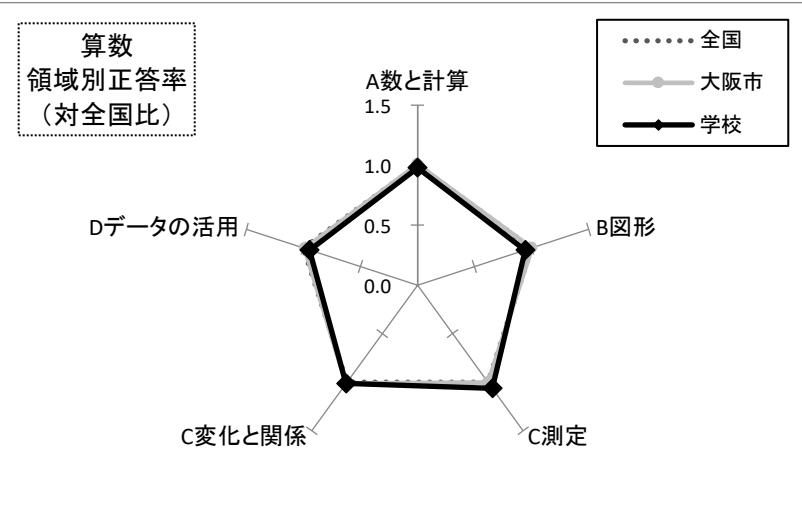
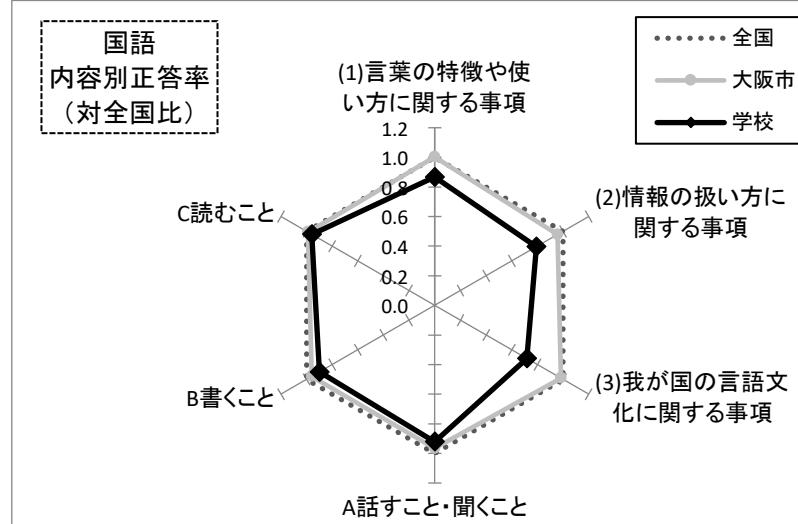
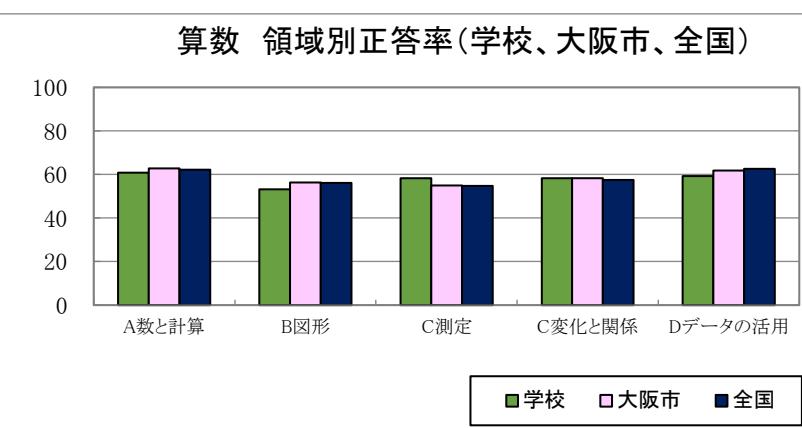
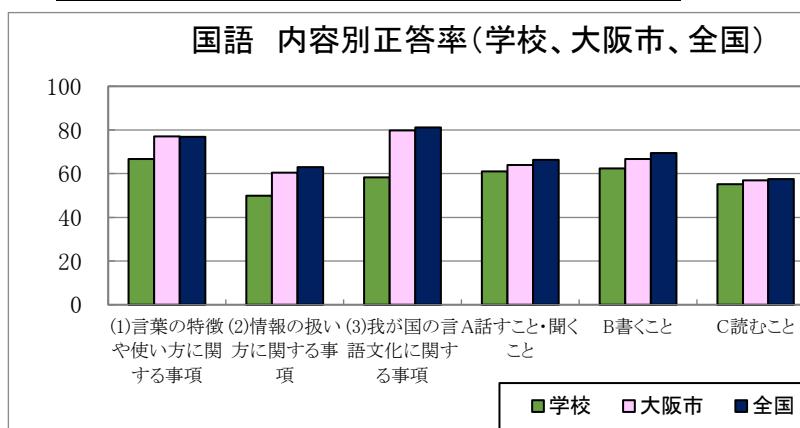


【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	66.7	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	50.0	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	58.3	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	61.1	64.0	66.3
B 書くこと	3	62.5	66.7	69.5
C 読むこと	4	55.2	56.9	57.5

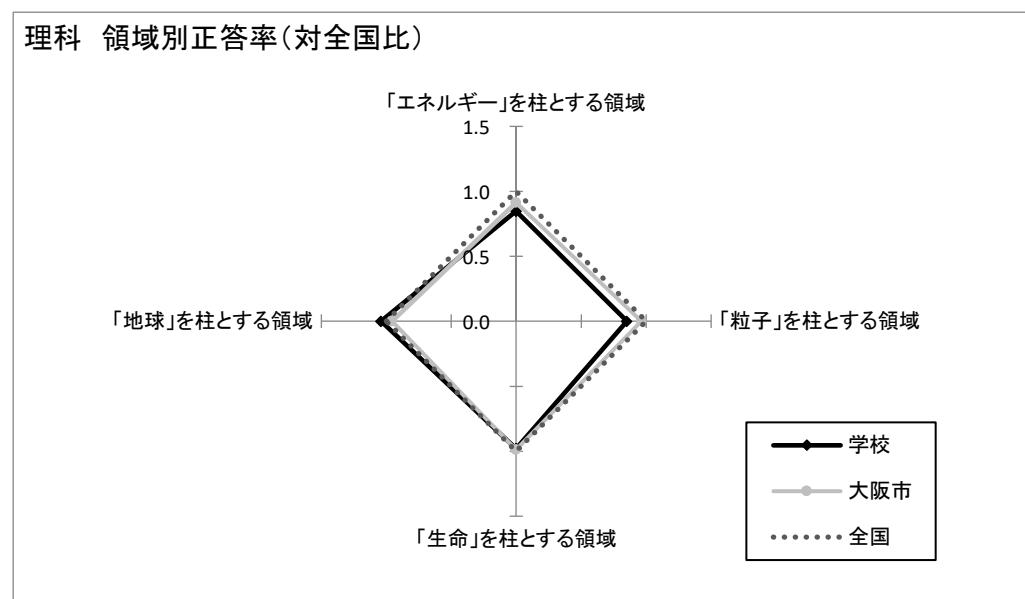
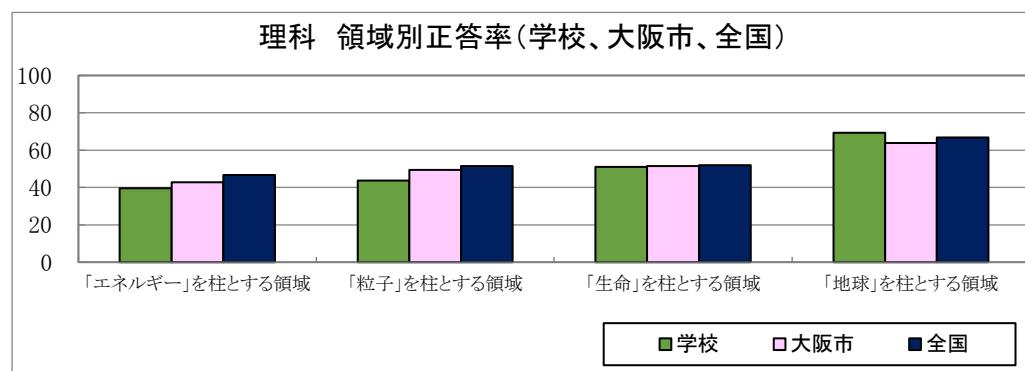
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	60.9	62.7	62.3
B 図形	4	53.1	56.4	56.2
C 測定	2	58.3	54.9	54.8
C 変化と関係	3	58.3	58.2	57.5
D データの活用	5	59.2	61.9	62.6



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 分 区	「エネルギー」を 柱とする領域	4	39.6	42.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	43.8	49.5
B 分 区	「生命」を 柱とする領域	4	51.0	51.4
	「地球」を 柱とする領域	6	69.4	63.8



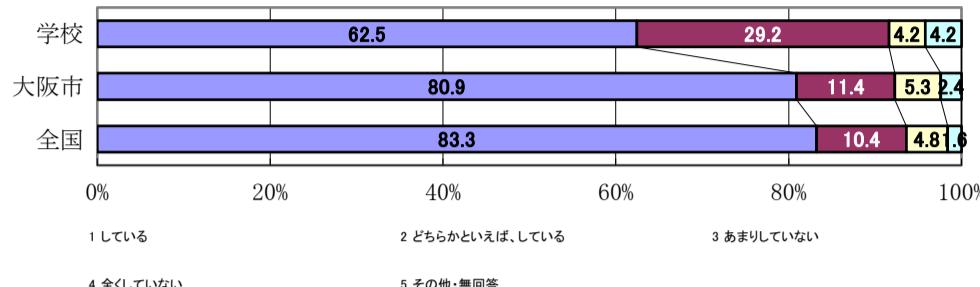
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

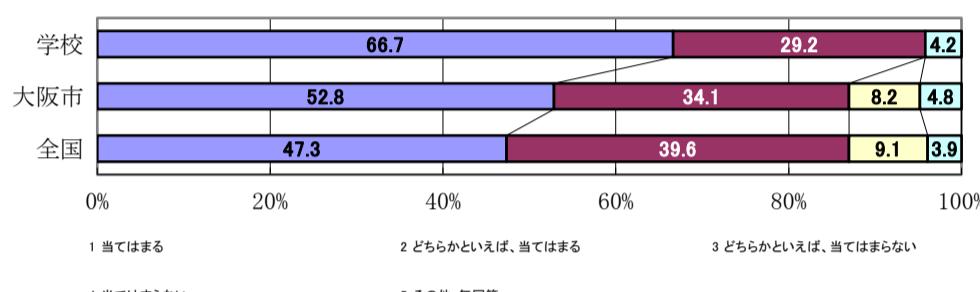
1

朝食を毎日食べていますか



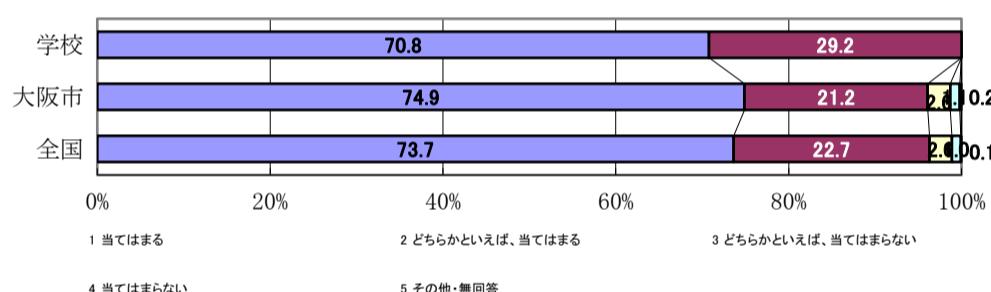
5

自分には、よいところがあると思いますか



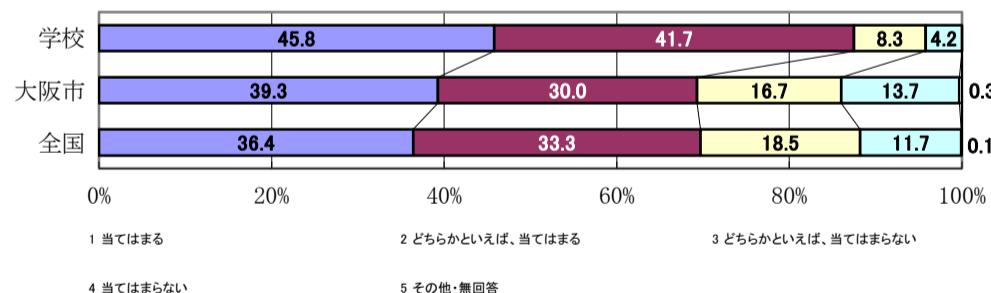
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



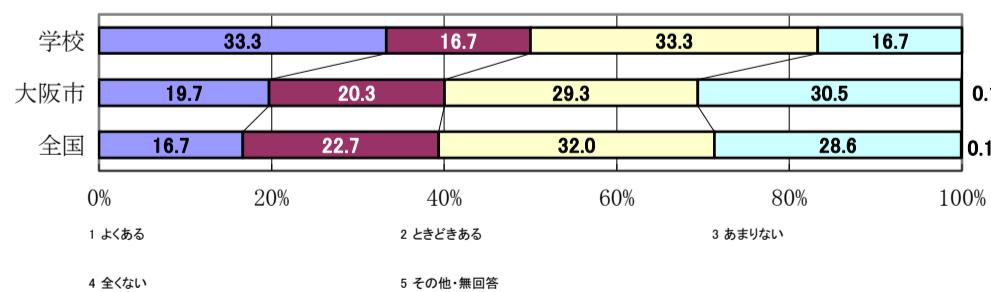
24

読書は好きですか



26

地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事は除く)



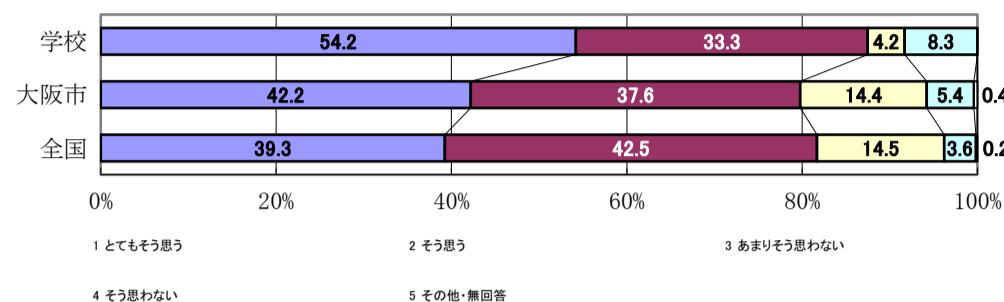
児童質問より

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8

質問番号
質問事項

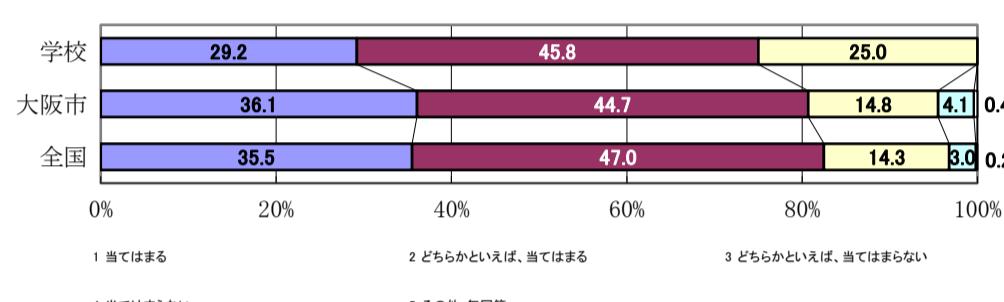
72

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思いますか



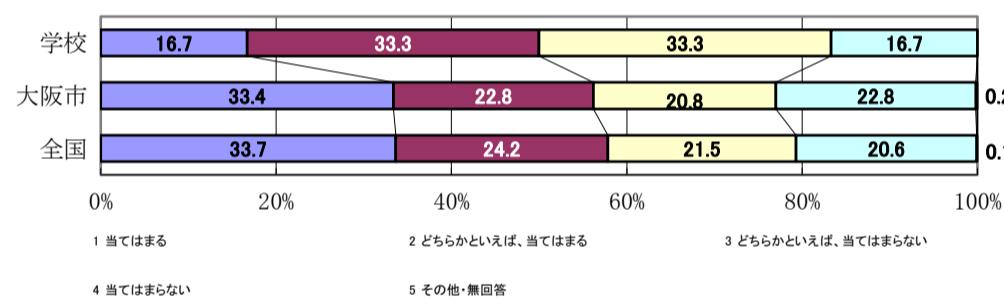
37

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか



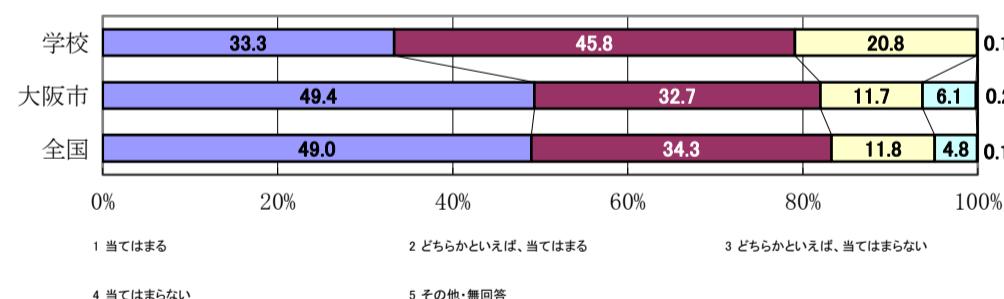
53

算数の勉強は好きですか



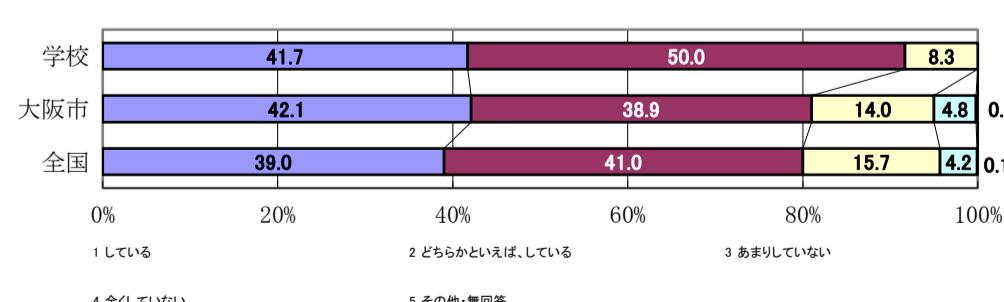
56

算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか



71

健康にすごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか



学校質問より

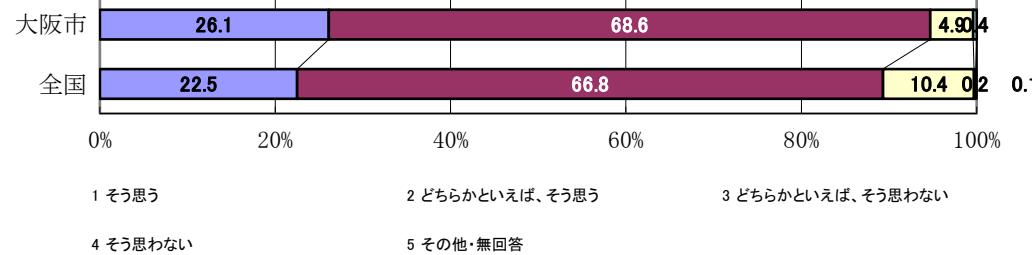
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

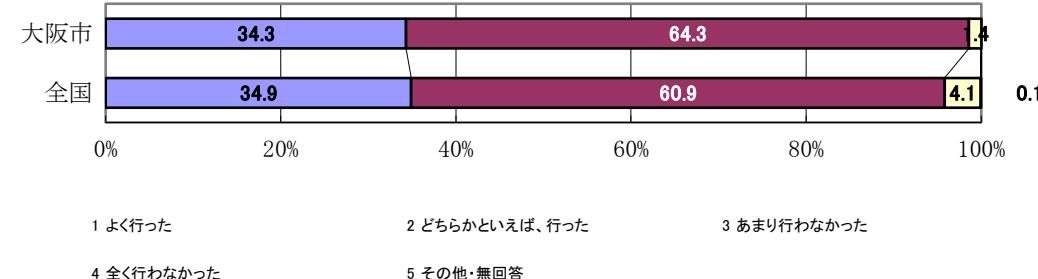
学校 「そう思う」を選択



43

調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか

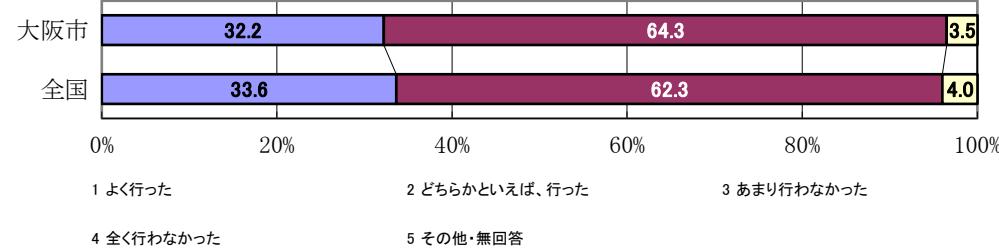
学校 「よく行った」を選択



44

調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる指導を行いましたか

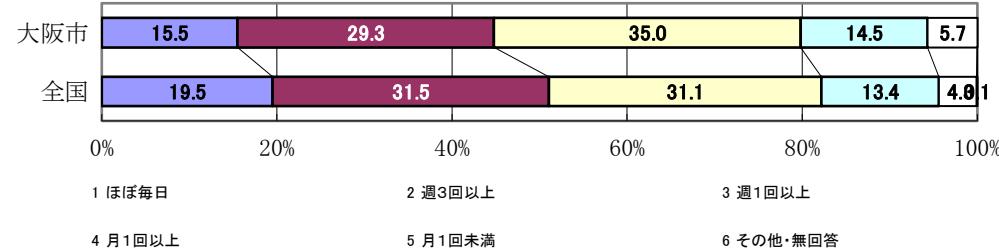
学校 「よく行った」を選択



63

調査対象学年の児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「月1回以上」を選択



81

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習について、児童が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか

学校 「あまり行わなかった」を選択

